

5
1995.5

薬友会報

千葉大学薬友会



Welcome to our University !!



サフラン



講堂下



フタタマオウ



実習風景

薬友会会長就任にあたって.....	2
退官・新任教授あいさつ.....	2・3
未来への提言 (特集：薬学教育と薬剤師).....	4~6
あの道・この道(会員だより).....	7
サークル情報(東医研、薬テ).....	7
研究室紹介.....	8・9

クラス通信.....	10~16
支部だより.....	17
みのはな山岳会.....	17
就職状況、入学者一覧.....	18
教職員の異動.....	18
薬友会より.....	19
生涯教育セミナーのお知らせ.....	20

薬友会会長就任にあたって

畝 本 力



この度、教授会の推薦により平成7年5月1日より薬学部長を務めることになりました畝本です。現在、薬学部は大変革の時期を迎えています。その一つはこれからますます高齢化する社会において高度医療を支える重要なメンバーとして、その活躍が期待されている臨床薬剤師の養成です。そのためには、医療薬学に関する専門的知識と実習経験を豊富にする教育体制が必要となります。この問題は薬学部の6年制構想とも関連しています。もう一つの課題は高度な教育・研究機関にふさわしい大学院大学への脱皮です。千葉大学では大学改革により教養部が廃止され、4年一貫教育となりました。現在はその移行過程にあり、学部教育の対応に迫られています。学部教育の充実と大学院大学への脱皮を同時に成し遂げるのは容易なことではありません。ご存じのごとく、薬学部の建物もすでに老朽化し、新しい研究環境を整備するためにも新営は緊急の課題です。これらの様々な問題を視野に入れながら、将来を目指して、まずは足元を固めることに専念したいと考えています。

これからは薬剤師の再教育とも関連して、卒業生の大学への回帰がとて重要になります。大学は単なる青春の思い出の場所としてではなく、一生を通じて知的情報源として魅力ある場に変身する必要があります。そのためには卒業生各位の積極的なご協力とご参加を欠かすことは出来ません。社会に開かれた薬学部としてその存在価値を高めるために、皆様のご支援を頂きたい、何卒よろしくお願い申し上げます。

退官に際して



薬化学研究室 坂井進一郎

亥鼻の旧病院裏に在った千葉大学薬学部の木造建物から旧医学部の基礎講座の建物に移転しつづけた1960年10月に薬化学教室、三宅良一教授の下へ助教授として、東大薬学部から赴任した後、1962年第二薬化学教室の教授として独立して研究を進める様になった。1964年4月大学院薬学研究科修士コース発足時には米国に留学中で急ぎ帰国した。1966年には薬学部の西千葉キャンパスへの移転、引き続き製薬学科の設立などめまぐるしい時代の移り変わりがあり、1979年待望の大学院博士コースの設置が認められ、この時が我々薬学部教職員一同の最大の満足感を味わった時期であったと思う。それから早16年の歳月が過ぎ去ろうとしている。

これからの薬学が高度の薬剤師教育をめざして更に又変遷して行くことと思うが、大学での教育が研究基盤の上に存在する以上、その基盤が不動であれば薬学の更なる発展が期待されると考える。最後に、薬友会の益々の御発展を祈りますと共に35年の永い間、皆様にお世話になりましたことを深く感謝致します。有難う存じました。



生薬学研究室（遺伝子資源応用研究室） 村越 勇

昭和25年初秋の頃から千葉薬の人として迎えて戴き、28年10月恩師萩庭丈壽名誉教授の下で文部教官助手職を拝命。以来、今日まで良き師・良き友に恵まれ、また優れた多くの共同研究者を国内外に得て、過ぎた四十数年間は幸せな日々の連続であった。行不由徑（行くに徑（コミチ）に由（ヨ）らず）、マイペースを崩すことなく楽しく過ごさせて戴いた。

想えば、千葉薬が専門学校だった最後の時代から大学に昇格して今日に至る発展途上の時期をも含めて千葉薬と共に過ごしたことになるが、組織的にも若い教官達にとっては試練の時であったように思う。今後とも、関係者が一体となって、真の国際大学・大学人を目指して更に研鑽を重ね、千葉大学薬学部が堂々と国際社会の中で敬愛され頼りにされる学究の場として発展することを祈念いたします。

学友会会員の皆様の益々のご活躍をお祈りし、退官の辞とさせていただきます。有り難うございました。



細胞生物学研究室 玉野井逸朗

前回の会報(第4号)で、就任の挨拶をさせて頂きましたが、早いもので、この度は定年退官の挨拶となりました。

細胞生物学研究室を担当したこの一年の間に、細胞生物学の講義を一年生に、また三人の卒研の学生さんとともに、放医研でVan de Graff加速器を使い、マウスの血漿成分の分析を行ってきました。系統によって成分の違いがあることや、腫瘍細胞の移植によって死亡するマウスでは死の前にCaが異常に高くなることがわかりました。また全身にX線照射したマウスではZnが減少するなどいろいろ面白い結果が得られ、現在データを整理し、夏ドイツで開催される国際放射線研究会議で発表する予定です。

この一年間大変充実した期間となり、あらためて諸先生をはじめ、同窓会の方々、学生の皆さんに御礼を申し上げます。

最後に、薬学部のご発展とともに、薬友会のご活躍をお祈りいたします。

新任教授紹介



生体機能性分子研究室 相見 則郎(昭和36年東京大学薬学部卒業、昭和38年東京大学大学院修士課程修了)

昨年6月から附属薬用資源教育研究センターの標記部門を担当させて頂いております。

薬学は「薬」という物質分子の側から生命科学を追求する学問であり、分子を化学構造のレベルで理解できるところに薬学人の重要なレゾナンスがあります。一口に化学構造といっても炭素、酸素、窒素、水素などの原子が数十をこえるとその可能な組み合わせはたちまちとてつもない数になってしまいます。どの組み合わせが意味のある構造なのか、試行錯誤、人間に許される連想的思考で全く新規な分子構造をデザインすることは殆ど不可能です。そんなとき自然界は真に意味のある構造をむきだしのかたちで私たちに提示してくれます。自然界生態圏に創薬のヒントを求め、そこに提示された化学構造を出発点として化学の力で有用な生体機能性分子を開発すること。その研究を通して有機化学の教育を行い、応用力に富む薬学人、薬分子の構造に対する正しい理解力を持った薬剤師の育成に貢献することが現在の私の願望です。



遺伝子資源応用研究室 齊藤 和季(昭和52年東京大学薬学部卒業、昭和54年東京大学大学院修士課程修了)

平成7年4月1日より当研究室を担当することになりました。諸先輩方のご尽力により昨年度新設されましたセンターの新しい研究室をスタートさせるにあたり、その責任に身の引き締まる思いが致します。

この全国的にも極めてユニークな新設の研究室が担当すべき研究・教育分野は、爆発的な進歩を遂げつつある分子生物学やバイオテクノロジーを基礎として、植物をはじめとする薬用生物資源を遺伝子レベルで取り扱い、人類の健康に寄与することを目的とする先端的な分野であります。この目的のためには、まず有用物質が作られる仕組みを分子のレベルで精密に解明し、それを基礎に人為的に操作し応用することが必要です。基本的な姿勢として、薬用という立脚点を見失わず、かつ近視眼的な薬用にとどまらず、より一般性のあるスタンダードの高い研究をと考えています。その結果、薬用生物資源を通して自然史を根源的な視点で理解するという、スケールの大きな研究・教育が出来ればと願っています。

薬友会会員の皆様のご支援をお願い申し上げます。



Pharmacist as No. 1



米国ロードアイランド大学薬学部教授 清水 譲 (北海道大学薬学部 昭和33年卒)

ニューヨークの24時間ニュースステーションであるWCBSを聴いていますと、時折「薬剤師はアメリカで一番信頼されている職業です」に始まるコマーシャルが流れます。薬剤師はここ数年続けて権威あるガラップの世論調査で一番信頼できる職業に選ばれました。これは20数年前の米国の薬剤師の実情を知るものにとっては感に堪えないものがあります。ちなみに、牧師2位、大学教授4位、医師6位、弁護士17位です。

2、30年前の薬剤師は職業として低く見られており、単に医師から来る処方箋を言われるとおりに fill し、あとは石鹸などの雑貨やソーダ水を売る白衣をきた冴えないおじさんというのが一般のイメージでした。社会的な地位も、せいぜい町内会の世話役程度で、医師、弁護士などに比べれば、無きに等しいものでした。それでも昔は、散剤、水剤などを作る調剤の仕事がありましたが、剤形の変化でそれらも必要が無くなり、薬剤師不要論も聞かれました。若者にとっても魅力の無い職業で、薬学には行き手が無く、現に私が米国で教え始めた1969年のクラスは定員の半分以上30人でした(現在120人)。連邦政府は、薬剤師不足を補うために、学生一人頭にくらと報奨金を払ったりしました。

このような状況のなかで、米国薬学教育審議会(AACP)と米国薬剤師協会(APHA)のとった方針は振り返って見ると敬服に値します。薬剤師の存続と地位の向上のためには臨床薬学のほかはない。患者に直接接することが無ければ医療体系の中で非常に弱い存在になる。全て患者があくまで中心で、そのためにはまず教育をそのように変えて行かねばならない、と言うのが骨子です。この教育の改革は、民主的にやられたものでなく、上から下へ押し付けられたものであったので、改革に反対する教職員が大部分でした。それを敢えて押し進めていった指導者の勇気と卓見には敬服します。結果として、薬剤師は全く別の職業になりました。薬の選択、投薬後の患者管理等、薬療法全体に薬剤師が主体的に関与するようになりました。一番重要な点は、カウンセリングの義務付けでしょう。州によって違いますが、これは単なる服薬指導のような簡単なものではなく、薬療法全般についての患者との対応です。病院なら薬に関して話す時は、医師、薬剤師、患者の3者の同席が求められることになりました。薬剤師の地位は向上し、病院でもドクターと呼ばれ、臨床家として活躍するようになりました。職場も広がり、薬療法の多い老人ホームは専任薬剤師が投薬管理に当たっています。大卒で就職率が100パーセントは薬学のみです。初任給も大学正教授の平均給に匹敵します。全米的に薬学は人気が高く、学士入学が多く、中には博士号をもっている人も入って来るあります。

医師も薬剤師の真価を次第に認め、薬に関しては薬剤師に頼るようになりました。臨床でも対等に患者の様態をディスカスするようになりました。米国の病院に留学した日本の医師の驚くところでした。実際、現在の医療に力める薬療法の比率は高く、また内容も高度化し、医師は時間的にも勉強する暇はありません。薬害の防止、医療費の切り下げに関して薬剤師の果たしている役割は高く評価されています。

日本の薬剤師教育の現状、将来に対する対応は憂うべきものです。医薬分業などといいますが、現在のような教育をしては、かなえの軽重を問われかねません。現在の薬学教育は化学科、生物学科とあまり変わりはありません。むしろ、生化学専攻等の人のほうがより資格があるとさえ思われます。4年の短い年限に加えて、実験が多く、また卒業実習などに時間が潰れ、とても現代の医療に携わる資格ができるとは思えません。日本の薬学は、化学などの研究面で世界的な評価を受けていますが、研究は研究、教育は教育とはっきり区別し、国民医療への責任を深く認識し改革して行くべきだと思います。希望がもてることは、米国でも25年前は同じような状態だったことです。決して不可能ではないことです。

明日への提言



千葉大学薬学部教授 山崎 幹夫 (昭和29年卒)

医薬品は人類が長い経験と英知を働かせて生み出した知的文化財であると言われますが、医薬品をめぐる科学の進歩は目覚しく、医療の内容も大きく変わりました。いまなお激しく変わりつつあると言ってよいでしょう。かつて「薬学白書」(日本薬学会 1964)は、薬学を「医薬の創製、生産、管理を目標としこれに必要な基礎科学を動員体系化した総合科学である」と定義

しました。この基本理念はいまも変わりませんが、その内容は完全に変ったと言わざるを得ないのです。

この時期を迎え、当然のことながら薬学教育も社会の要請に応えるべく転換しなければならないでしょう。薬学部は薬剤師を養成する唯一の学部です。にもかかわらず、実務研修を含め、医療の現場とのつながりがあまりにも希薄にすぎたために、必ずしも本来の目的を達成することができずに今日に至ったと言われています。特に社会の高齢化を迎え、医薬品の内容が先鋭化し、その使用法も複雑化した昨今、薬学教育における医療薬学教育の不足が強く指摘されるようになりました。私もその通りだと思います。常に患者を指向する姿勢と明確な倫理感と使命感をもち、医薬品の適正使用のために欠かすことのできない適確な医薬品情報学を身につけた薬剤師を医療チームの一員として現場に送り出すことは薬学教育の重大な役割です。

一方で、これも社会からの強い要請である創薬——画期的で創造性豊かな新医薬品の研究開発にあたる人材の教育はこれまで十分に行われてきたのでしょうか。私はこれも十分ではなかったと考えざるを得ません。創薬にとっても上に掲げたような医療薬学教育の基本は必須であり、臨床における医薬品の適正使用への理解をもたない研究者には創薬を志向することはできません。従って、医薬品の候補となる物質の分子設計、合成、あるいは薬効評価などに、いかに高い技術をもたせたとしても、創薬の精神をしっかりと身につけさせる教育を欠いては創薬科学者は育ちません。

幸いなことに、わが国の薬学はこれまでに基礎科学を指向した歴史をもち、成果を蓄積してきました。分子レベルでの理解を基盤に据えた基礎生命科学は薬学にとっては不可欠です。この生命・分子科学と創薬科学と社会薬学を含めた医療薬学と、この三本の柱が密接に関与しあった教育こそが、これからの薬学を支える新しい教育の姿ではないでしょうか。

信頼という名の薬局



水野薬局 水野 保（昭和38年卒）

東京都足立区薬剤師会は、昭和40年代頃には、薬剤師会活動よりも、薬業協同組合活動の方が活発で、薬剤師会はイコール学校薬剤師会という感じてした。当時の地域社会における開局薬剤師に対する認識の低さに驚き、45年頃から、東京都薬剤師会足立支部の活動に参画し、親睦基調の団体から職能団体への脱皮すべく、会則の変更を行い、今までの薬業を営む者は誰でも入会できましたのを、薬剤師だけに入会を認め正会員とすることに変更したのですが、当時では大変な問題で、違反者も多数でした。そして、昭和60年 社団法人として認可を受けて、社団法人足立区薬剤師会となり、今年十周年を迎えます。

もう一つは、管理センターの設置です。

現在、開局薬剤師に求められている問題は、枚挙にいとまもないほどです。特に、処方せん応需問題は、ここに来て一変してきております。患者本位の良質な医薬品の供給を推進すべきですが、今は、門前薬局、マンツーマン薬局という好ましくない状況で、凄惨な勢いで進んでいます。このような社会情勢の変化に即して、社団法人足立区薬剤師会管理センターが昨年完成いたしました。足立区では、東京都薬剤師会を経由するレセプトが、平成6年10月で、16万枚あり、直接支払基金に提出する分を加算いたしますと、約20万枚以上であると思われます。これは、一世帯が一月に約一枚の処方せんを薬局で調剤している状態です。この枚数は全都の第三位になりますが、国公立大病院のない足立区では、大半がマンツーマンの分業です。過度期の激変の時であり仕方がない面もありますが、ややもすれば患者本位ではなく、医者へのサービスのみが最優先してしまい経済本位の分業なのが残念です。

薬剤師法の薬剤師の任務にある通り、調剤だけが任務ではありません。医者の開業時間だけ開局しているという業務でいいのでしょうか。

調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、地域住民から信頼される薬局になるのではないでしょうか。今、薬剤師は求められています。今こそ、調剤だけでなく、すべての任務をバランス良く発揮して、片寄ったサービスでなく、地域住民に対するサービスに徹する時だと思います。

最後に、東京支部のなかに、開局の会員の部会を作るように準備しておりますので、その節はご協力の程お願いいたします。

「ファーマシューティカルケア」の時代へ

北里大学病院薬剤部 望月 真弓（昭和51年卒）



最近、WHOが「ファーマシューティカルケア」という薬剤師のための新しい行動規範を作成し、改めて薬剤師の職能が問われています。

薬剤師が物質中心の時代にあった1950年代の日本においてもすでに「臨床薬学」の重要性を提唱する人々がいました。にもかかわらず日本の臨床薬学の浸透がこのように米国より20年以上遅れたのは何故でしょうか。医療組織の封建制、薬剤師自身の力量と意欲の不足、薬剤師に

施された教育の問題、医薬分業が完全には実施されていない、など様々な要因が考えられます。

しかし、最近になってこれらの要因を飛び越えて、薬剤師の薬物療法への関与が強く求められるようになってきました。これは作用の強い、あるいは剤形に工夫をこらした新薬の登場、患者意識の変化、人口高齢化に伴う疾病構造の変化や多剤併用の増加などに起因します。このような変化は医療関係者に十分な医薬品情報を持ち、有効性と安全性のバランスのとれた薬物療法を行うことの必要性を説き、医薬品の専門家である薬剤師に表舞台に登場することを促しました。こうして1988年には病院薬剤師の領域に入院調剤技術基本料（薬剤管理指導料、通称600点業務）が導入され、薬剤師による医薬品情報の提供、薬物療法の管理、薬物投与設計、患者指導に診療報酬が与えられ、薬剤師業務の範囲は急速に広がりました。一方、厚生省の肝入りで医薬分業が推進され、市中薬局の薬剤師へのニーズも増大してきています。このような社会情勢に応じて1992年の改正医療法では薬剤師が「医療の担い手」として明記され医療チームの一員として公認されました。

いまや薬剤師は医師の回診に参加し、医師からの要請にこたえて処方アドバイスを行うまでになっています。「ファーマシューティカルケア」の時代では病院・市中薬局の薬剤師のみならず、製薬企業、公的保健機関などで働く全ての薬剤師に「患者のために薬剤師としてできること」を常に考えて行動することが求められます。これは調剤のみならず医薬品の創製、供給、管理から公衆衛生の向上をもカバーする非常に広い概念で、このような薬剤師に対する社会的要求を満たすには、その輩出機関である薬学部への責任はとて重大です。薬剤師＝調剤する人という考えは捨て、薬を通じて社会に貢献する全ての職種としてとらえ、卒前、卒後教育の両面から支援していただきたいものと思います。

私の思う薬剤師

藤崎 浩子（学部2年生）



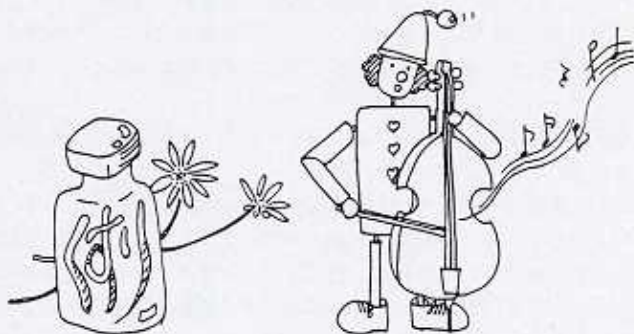
アルバイトに余念がない私のところによく高校生から質問の手紙が届きます。「千葉はどこなところか」に始まり、「カリキュラムは」、「卒業後の進路は」など質問は様々で、高校生の頃の自分を思い出させてくれます。

私も高校生の時は、大学の中身は全く知らず、薬の作用を知るんだとか、実験をたくさんするんだらうとか、ただ想像で考えていました。でも想像と現実とは大きな差があると感じました。まずは一般教養で、専門は2つだけだったので「私はこういう授業を受けたいんじゃない」と、思ったりしました。

さて、大学に入って下宿をするようになると、いろいろなことに気がつきます。

近所の診療所は夜も外来をやっているし、薬に関しても、窓口で薬剤師が服薬指導や薬の説明もしっかり行っています。私の育った地元ではとても考えられないことで本当に私にとっては驚きでした。でも、親切な薬剤師さんも、病院内での地位はどうなっているんだろうと思い、薬学部が6年制になるという話を、ふと思いました。

最近では病院薬剤師の新しい重要な仕事に薬剤管理指導業務、在宅服薬指導など、いろいろあると聞きます。そういった仕事の高度化、広域化に対応して、医師のアドバイザーとしてやっていく人材を育てる教育には、やはり6年間必要なのだと思います。でも女の子にとってはちょっとつらいところですが。





学生時代の意け者、今、企業戦士に

寺尾 和子（昭和48年卒）

当時、まだ学生運動が盛んだったとは言え、ほとんど勉強もせず、ぎりぎりの成績で何とか卒業できたような学生時代を送りました。恐らく『自分を求めて』彷徨っていたのだと思いますが、そんな学生気分の延長で入社した製薬会社で、生まれて初めての男女差別の壁にぶつかり、結局6カ月で退社。この時の壁がその後の私の人生観を大きく変えることになりました。親しかった友人の死、英国へ

の語学留学、数回の転職などを経て、たどり着いたのが社員5名の小さな米国系医学出版社。英国人社長と共に休日出勤も当たり前と猛烈に働き出して早くも9年、今や社員も約100名となりました。今年から新事業として別会社をスタート、その社長に就任しましたが、今年入社した後輩の原田久子さんと全7名のスタッフで、再び新ビジネスを軌道にのせるべく挑戦し続けたいと思っています。

サークル情報



55年の歴史！ 東医研

東洋医学研究会は今年で55年の歴史を持つ、伝統あるサークルです。

活動内容は、前期は漢方に関する基礎的な勉強を行います。これが終わると薬学部祭に向けて研究テーマを決め、準備にとりかかります。夏休みには合宿を行い、OBの方々のお話をうかがいます。後期に入るとすぐ薬学部祭があり、そこで今までの研究の成果を発表します。（昨年は漢方薬に関する

意識調査、薬膳、アロマセラピーの各テーマで発表しました。）薬学部祭が終わると、古典を読んだり、漢方薬の薬効・実際の使い方等を勉強します。

この他にもいろいろな企画があり、和気あたたかとした雰囲気の中で楽しく活動しています。（文責 長谷川哲也）



薬学テニス同好会

我が薬学テニスサークルでは、シーズン時の週2回のコートでの練習、春・夏の合宿、冬のスキー合宿、年2回のファーマシーカップなどの行事を通して活動をしています。雰囲気としてはテニス経験者が少なく、ほとんどが初心者のため誰でも気軽に参加ができ、束縛感のあまり感じられない自由なサークルです。また一度でも雰囲気に溶け込むと、すぐになじむことができるので先輩・後輩等の縦のつながりが比較的

強くなり、いろいろなことの情報交換が盛んになされるなどの側面もあります。テニスに興味がある人には参加する価値のあるサークルの一つだと言えるでしょう。

（文責 大木康弘）



研究室紹介

微生物薬品化学研究室



現在（平成7年1月）の微生物薬品化学研究室は澤井哲夫教授、山口明人助教授、塚本喜久雄助手、額賀路嘉教務職員のスタッフと博士後期課程2名、前期課程6名、4年生5名、来年度前期課程進学予定の留学生1名の18名で研究に取り組んでいます。

当研究室では設立以来、薬剤耐性の遺伝とメカニズムをテーマに研究して来ました。しかし、その内容は大きく変わって来ました。設立当初の研究室の仕事は主に有機合成でしたが、間もなく酵素化学を中心とした生化学領域へと転身、現在では遺伝子工学、タンパク質工学の手法を用いて研究しています。 β -ラクタマーゼとテトラサイクリン排出タンパク質をそれぞれ研究テーマとする2つの研究グループがありますが、いずれも耐性菌に有効な抗生物質新誘導体開発に有用な情報を提供するという共通の目的を持っています。

当研究室は実験、セミナーのみならず、レクリエーションまで体力が必要な体育会系研究室を自負しておりますがそれだけに現役生、卒業生の結束が固いことも特色です。昨年11月に開かれた35周年記念同門会では初代卒業生から現役生まで一同に会し、楽しいひとときを過ごしました。卒業生の方々に頻りに来て頂いても常に新鮮な話題を提供できるように研究室のアクティビティを高く保っていきたいと思います。

（額賀路嘉）

薬品合成化学研究室



平成6年春、薬品合成化学研究室は装いを新たに、「中川研究室」として生まれ変わりました。初代日野亨教授の築かれた伝統を礎として、新たな時代の要請に答えるべく、未知のステージへと挑戦していく体勢を整えつつあります。旧助教授室はドレスアップされ緑を望む対話の空間へと模様替えを済ませました。旧教授室は日野名誉教授の書物と思い出を残し、読書や食事そして実験の疲れを癒すグリーブルームへと変身しました。

有機合成化学は生命活動の原点にある合成という行為がテクノロジーの形で昇華したものであり、現代生命化学の根幹をなすものと考えられます。当研究室で現在展開されているプロジェクトを要約して述べると次のようにまとめられます。

- 1) 癌化学療法のリード化合物探索を目指した含窒素天然物の合成研究
- 2) 有用な不斉合成手段の開発研究
- 3) 生体機能物質の合成とその生物活性発現機構への有機化学的アプローチ

職員、学生共このような研究のフロンティアに身をおき、荒地に種をまく日々を送っています。いつでも在学生、先輩諸氏の御質問、御意見、叱咤激励を待ち望んでいます。

（烏澤保廣）



薬品物理化学研究室



薬品物理化学研究室は、薬効・安全性学講座に属し、大学院研究科では、分子情報制御学を研究主科目としています。

本研究室では、量子力学の基礎方程式を実際の医学の作用に適用し、そのしくみを明らかにする研究をスーパーコンピュータを用いて行っています。例えば、最近行っている研究の一つに「HIV-1 プロテアーゼの作用機構の解明」があります。HIV-1 プロテアーゼは、エイズの原因ウイルス HIV-1 の増殖になくしてはならない酵素ですから、その作用を阻害する物質は、強力な抗エイズ薬となることが期待されます。この酵素の作用機構を解明するため、実際の酵素反応をよく表すモデルを構成し、作用機構の解明に努めています。そして、その結果を基に抗エイズ薬の分子設計を行っています。また、ras p21 やアセチルコリンエステラーゼ等の作用機構の解明にも取り組んでいます。

この他、結晶成長、固体表面、光化学など幅広い分野で原子、分子レベルでの構造や反応機構を解明する研究を行っており、新しい現象、不思議な現象にはいち早くチャレンジし、「面白い研究」をすることをモットーとしています。

(畑 品之)

放射性薬品化学研究室



蛹（放射化学）が蝶（放射性薬品化学）に変身するようなわけには行きませんが、学生数ゼロで出発した本研究室も新しいテーマで徐々にではありますが、進展がみられています。現在、研究室で進められている研究テーマは、①新しいアイソトープで、標識したガン治療薬及び診断薬、②薬剤のトリチウム及び重水素による標識並びにその利用、③生体構成分子に対する重粒子線照射の影響、④動物および植物試料中の微量元素の分析です。①のテーマは昨年4月からプロジェクトに参加して始めたもので、昨年末に行われた研究会の結果、プロジェクト全体の初期の成果としては一定の評価が得られるところまでできました。②のテーマは、技術的にはこれまで共同でまたは単独で日本原子力研究所や立教大学の原子炉を利用して行ってきた反跳トリチウムの反応の研究あるいは水素同位体交換反応の研究の延長線上にあり、大学のアイソトープ総合センターの施設（旧教養部のR1施設）を利用して研究を始めています。

今後は核医学との協力へ向けたベクトルが重要になるでしょう。研究室では、学生が自分の考えでテーマを発展させてゆく気風を育てて行く方針です。薬学部に来られたときには、研究室に寄っていただき是非議論に加わっていただくようお願いします。

(大橋國男)

クラス通信

昭和3年卒業（思葉会）

80歳代後半の高齢者クラスになると、これ迄と異なり、お互いの交遊度合も様々な事由に依り、年を追って次第に減少する傾向にある。思うに之は止むに止まれぬ不可抗力とも言える自然の成り行きではなからうか。従って肝腎のクラス通信の話題も、残念ながら却々思うに委せずという事態にならざるを得ない。

因に目下の健在者は5名：岡山（歳森亨一）、神戸（酒井勇太郎）、東京（正田勝朗、岡本實、丹野雅道）
音信不通者1名：千葉（須田保）
（間もなく89歳 丹野雅道）

昭和5年卒業（五葉会）

昭和5年卒業の五葉会会員は卒業して65年、その長い歳月を思うと実に感慨無量である。卒業時、58名だったが現存者は19名となり入学当時、紅顔の美少年もいまは86～7歳の老人となって医業に親しむことが多くなった。

というわけでクラス会としてはこのところ活動らしい催しもなく、平成4年までは毎年五月の好季節を選んで熱海か箱根温泉に泊ってクラス会をつづけて来たが、近年は会員も漸次減り欠席者が多くなったので一昨年から趣向を変えて東京都内に会場を移し開催している。しかしそれでも色々と故障が多く昨年の出席者は8名の予定のところ、当日になって集まった者は結局7名となった。

以前の会合で最も多く出席したのは約23名、平均15～6名であったが最近では欠席者が多く、真に寥々たる有様、自然の成行とは云いながら肅々と人生の無常を感じる。
（石田 新）

昭和8年卒業（八千葉会）

八千葉会は卒業後62周年を迎えることになりました。生存者僅かに30%の中の数人と物故会員の家族（元会



員の奥様が主体ですが娘さんも加入しています）と年1回の懇親旅行会を2泊3日で行っています。昨年は鹿教湯温泉で10人の出席を得ました。昔を偲び話し合うのが楽しみです。いつも薬友会の幹事様方々にお世話になっている事を深謝してクラス通信といたします。
（前納 勇）

昭和9年卒業（昭九会）

今年は是非クラス会を開きたい!!

学校を卒業したのは昭和9年（1934年）であるから、卒業してからは還暦を過ぎたわけである。

毎年開催していたクラス会も寄る年波と出席者が減って来てしまったので、いつとはなしに開かない年が続いた。

昨年の10月頃に川奈部君からクラス会をやらないかとの話もあったが、当時はやや多忙で山中氏とも相談の結果年内は無理と中止した。

今年の1月9日、名古屋の森専造君が昨年の8月に急逝されたことを知らされた。クラス会に出席の常連であっただけに残念でならないと同時に、身近に寂寥を感じる次第で、今年は何がなんでもクラス会を開催したいと考えている。果たして何人が集まってくれるだろうか。

また友の 一人欠けたる 寒さかな

（中村晃蔵）

昭和11年卒業（士葉会）

我々士葉会（昭和11年卒）は現役で入学したもので

株式会社アポテカーバンク

薬剤師職業紹介所
(方准大臣許可 13-コヤ-0001)

吉野 紀子 (昭和56年卒)

〒151 東京都渋谷区富ヶ谷 1-11-12
アルシュ代々木4F

TEL. 03-3467-8531
FAX. 03-3485-0571

イワキ 株式会社 岩城製薬株式会社

取締役会長 岩城 謙太郎
(昭和15年卒)

〒103 東京都中央区日本橋本町 4-8-2
電話 03-3241-2070

も男の平均寿命を突破して全員傘寿に達している。50名卒業したが、健常者は10名足らずとなった。その中千住の吉岡君、目黒の山口君、墨田の本田君は大婦揃って健在で、皆金婚式を終っており、私一人が男やもめで昨年亡妻の23回忌法要を行った。この4人で時々電話連絡をして、上野で集まりアメ横の寿楽亭の指定席でお茶で乾杯して、旧交を温めている。

去る1月22日は雨の中新年会を行い、共に関東大震災の経験者なので阪神大震災の被害の物すごさを連日テレビ、ラジオの放送で知り、我々だったらどうなるだろうなど話は尽きませんでした。晴天ならばそれから上野の森で森林浴を楽しむのですがあの日はそのまま散会しました。後何年続くことや。とにかくどうやら一病息災ながら自分のことだけ自分で出来ることが何より幸せと思う昨今である。(大河原五郎)

昭和13年卒業(亥丘会)

卒業生54名中、生存者29名、消息不明者2名(佐野、金坂)逝去者23名である。

クラス幹事の泉富雄君が昨年入退院を3回もしたので、同君の健康回復を待って本年秋東京でクラス会を開催する予定である。

二年前に発足した千葉薬専卒業生有志の会員(昭和10年~26年卒業)で結成した「亥鼻会」では、投稿者40名による薬専時代の思い出など亥鼻が丘の香り高い文集を今春発行する準備を整えている。

病床にある亥丘会会員には亥丘会の基金から支出して、御見舞としてこの文集を贈呈するつもりである。(藤沢栄一)

昭和14年卒業

昭和14年卒の我々が卒業後55年を経て振り返って見ると、卒業時50名のメンバーは現在24名となり物故者は半数を超えております。平成6年11月本橋クラブでの会合は11名でしたが遠く箕面市、上越市よりも出席された次第です。何分にも70代半ばと過ぎると無病健康という人は先ずおらず、どこか不具合を持っています

が中でも胃癌、肺癌、大腸癌の三回の大手術を経験した人もありお互い年を感じた次第です。

(飯野和義、小山義郎)

昭和15年卒業(二六会)

本年は、卒業後55年になる。そこでクラス会の開催についてアンケートした。集計結果は、出席可能者は10~13名程度、一泊二日の希望もあったが、無理しないこととの意見を入れ、都内で昼食会が無難となる模様。横田君と相談して決める予定だが、本会報が出るころには、無事終了しているかも?

昨年「亥鼻会文集」への原稿依頼があり、岩城、山本、君塚、矢田部、石丸が協力した。本年3月29日の亥鼻会例会に発刊予定。

兵庫県地震での、同地区の会員の消息不明のまま擱筆するが、全員のご安泰を切にお祈り申しあげる。

(石丸正美)

昭和16年3月卒業(一葉会)

平成6年中の出来ごと

5月18日 神奈川県 真鶴グランドホテルにて、一泊クラス会を開く。14名出席

11月3日 千葉大学名誉教授 池田仁三郎君、勲三等旭日中綬章を戴く。

お目出度うございます。

12月6日 元日本学校薬剤師会副会長 飯森関男君 急逝する 贈正六位

クラスの中で、折紙細工の名人でした。

ご冥福を祈ります。

本年平成7年度は、4月に在阪の大石秀夫君のご盡力で、大阪箕面にて、クラス会開催を計画中です。

(向井廣澄)



エーザイ株式会社

東京都文京区小石川4-6-10



三共株式会社

〒103 東京都中央区日本橋本町3-5-1 TEL 03-5255-7111



昭和16年12月卒業（宣業会）

卒業の時50名のクラスメートは、今や23名が健在で半以下になりました。昨年は安藤さんが急逝、去る10月17日開催のクラス会も、常連が1人減って9名の集りでした。毎年2回開催の亥鼻会のうち、秋の集会の後、日本橋で昼間の開催でした。林知夫さんが叙職と著書「検証の魚学」の発刊で元気です。今年もクラス会を開きます。ぜひ健康で、がんばってください。

（安田英夫）



昭和17年9月卒業（翠葉会）

平成6年11月翠葉会を大宮アルシェ王宮で開催しました。病気回復の藤井（秀）君が出席し歓迎を受けました。反面2月渡辺君が逝去黙祷して二人の話題を中心に周富徳氏の料理を賞味し旧交を温めました。出席11名。今年は6月頃東京で開催する予定です。阪神大震災発生で24日やっと神戸の谷川君と電話ができて一家の健在を確認しました。（電話 078-302-5466）

宗田君も連絡がつき異常なく榎原、藤井（善）君異常なし。藤井（秀）君、糖尿病で失明、腎透析中。

（堤保二郎）

昭和20年卒業（るつぽ会）

平成6年度は、このところ恒例の海外特別クラス会を3月9日～13日の4泊5日で香港まで足を延ばし、おいしい中華料理とフェリー、地下鉄等々香港旅情を満喫して来ました。参加の面々は、中川、細川、坂本、田村、当山、原の6名。6月11日の定例クラス会（於上野）には、最近では最高の15名（飯塚（俊）、宮崎、渡辺、山田（精）、中川、原、横田、大谷、吉田、和田、西川、細川、田村、川島、坂本）の参加で大変盛り上がりまして楽しい一夜を過ごしました。

平成7年度は、海外は一年お休みして、定例のクラス会が、我々昭和20年卒の卒業50周年となるので、田村統司君の幹事で千葉市内にて、開催の予定であります。

尚、平成6年度には、12月5日、長島暉君の計報に接しました。謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

（原文男）

昭和25年卒業

平成4年のクラス会は千葉県在住者（8名）が当番で、秋頃県内で行う予定である。亥鼻を出て45年、亥乙年でもあり、全員が参加されるよう希望する。

去年は9月10日久保田・山之内君の世話で信州への遠出を楽しんだ（大町温泉郷葉家で13名懇親、14氏の情報も披露。翌日は山境行楽）。尚、この会合について池田・勝又君の亥鼻会文集（平7年3月刊）への寄稿あり、乞御一覽。

（鈴木昭治郎）

昭和26年卒業（26みのはな会）

毎年恒例の4月の第2金曜日がやって来る。熱海の山木旅館に集まって1年の無事を確認し合い、盃をあげて一夜を過ごす。既に年金生活に入る年齢だが、未だ永久現役を自認し、研究に、地域医療に情熱を注いでいる者も多い。尊くもあり頼もしい限りだ。30名弱の同期がお互いの元気な姿に接し、明日への糧ともなるようと、一人でも多くの参加が期待されている次第である。

（福島 靖）



シオノギ製薬

大阪市中央区道修町3-1-8 〒541

いのち、ふくらまそう。

第一製薬株式会社

東京都中央区日本橋三丁目14番10号

昭和28年卒業（千葉葉二八会）

私共新制大学の一期生として卒業した者は39名、現在36名が健在、既に全員還暦を迎えたが、悠々自適の生活を送る者もあれば、現職として、或いは第二の人生を新しい天地に求めて活躍している者と様々です。

一昨年は卒業40周年を記念して久方振りに大学に集まり、千葉葉100周年記念館で懇親会を開き、1泊の記念旅行、更には有志のカナダ旅行（桑原兄がカナダに移住したので）と盛り沢山でした。その疲れが昨年は一休みさせて戴きました。今年は桑原兄が帰国した折をねらってクラス会を開くことにしています。

（尾中喜代治）

昭和30年卒業

3月10日に4年ぶりのクラス会が赤坂東急ホテル14階・錦の間で開催され、卒業40周年ということで21名が出席した。卒業以来初めて顔を合わせたという人もいて「あの人誰だったっけ？」とそっと耳うちする場面もあった様だが、久しぶりに趣味の話、仕事の話、混えてお互いの近況、欠席者の消息等を報告しあい、幹事役の喜多代さんの提案で今後毎年3月10日に集まることとし、最後の2人になるまで続けよう約束して散会した。

（吉田智子）

昭和31年卒業（千葉葉三一會）

平成6年はクラス会を開きませんでした。還暦をすぎ、30余年の会社勤めも定年を迎えた人が増えました。Y社の重役であった検見崎氏は鹿児島市の鹿屋市で調剤薬局を開きました。現役の薬局や会社の経営者も直接地域社会の発展に寄与する年頃から、顧問として相談にのる年頃になりました。

（星 昭夫）

昭和33年卒業

我々のクラスは卒業後5年毎の節目の年に卒後○周年記念会を開催しております。昨年は8月末に馴染みの箱根ゆさか荘で同期会を行いました。特に節目の年ではありませんので男性13名、女性1名それに特別

参加の吉田智子さん（30年卒）の計15名の参加にとどまりました。今年も8月末に同期会を行う予定です。幹事は上野、渡辺（楯）、塩坪の3氏で、場所はダム建設で水没が予定されている群馬県川原湯温泉です。多数の旧友との再開を楽しみにしています。

（石井靖男）

昭和34年卒業

平成6年6月4日（出）、女性6名、男性13名が平安建都1200年のイベントに沸く京都に集まった。従来の関東地区での格調高い会と異なり、今回は民宿で、スキヤキ宴会とザコ寝という学生時代に戻ったような会となった。宿は穴場であったためか貸切状態で、誰に遠慮も要らず、夜更けまで談笑することができた。平成7年には仙台で集まることを決め、翌日は京の街に繰り出して散会した。

（野村幸一）

昭和36年卒業（三六会）

平成6年6月18日（出）～19日（回）、幹事の村上、高橋両君のお骨折りにより湯河原温泉「敷島館」で拡大幹事会を開催。男性のみ8名が参加しました。それというのも、一泊のクラス会に先立ち、先ず少人数で体験してからにしてはとの慎重意見もあり、かく相成った次第。

しばらく振りに会うとアバタもエクボ、白髪も薄い髪も皆30数年前の黒髪にみえてくるから不思議です。誰言うとなく、学生時代の下宿先に集まった感じだのの声。心は万年青年でも、会社ではそろそろ定年にさしかかる齡、これからの身の処し方や昔日の楽しい思い出やら、深更に及ぶまで話は尽きませんでした。まさに春宵一刻値千金……の感。

次回はクラス一同でこの楽しみを味わいたく、時期は未定ですが、出来れば今年、一泊のクラス会を開くよう幹事を中心にその準備が進められる予定です。

（林 毅）

私達はもうすぐ、
かっこいい男の子が
あふれる時代です。
最新の技術でつくった
人を中心とする技術で
より健康な明日を
実現するために……

コンチンワ、21世紀

技術は人にあたたい
MEDICAL FRONTIERS
大正製薬

話してみたい。2001



武田薬品工業株式会社

本社
〒541 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
東京本社
〒103 東京都中央区日本橋二丁目12番10号

昭和38年卒業

卒後30周年記念のクラス会に、皆勤の渡辺利秀君がめずらしく欠席し心配していたのですが、6年11月の突然の訃報に愕然としました。卒後、地元富士吉田市に戻り、地域での薬剤師活動に専念し、最近では、富士五湖薬剤師会の設立、備蓄センターの設置に努め、完成と共に、勤労感謝の日にクラス十数名に見送られ先立ちました。次回のクラス会は山梨県でと、皆と約束していたのに、

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(水野 保)

昭和39年卒業

昨年度は卒後30年を記念して勝浦への一泊旅行（4月1日、2日）を行いました。出席者は男性7名（五十嵐、江崎、久保、佐藤、鈴木、立沢、藤本）、女性8名（今泉、大原、小木曾、佐藤、滝沢、戸塚、波多、与座）の計15名でした。1日目は幕張プリンスホテルで昼食をとりましたが、それには増田さんも参加してくれました。亥鼻の桜はまだ早かったのですが、二日共晴天で久しぶりに皆さん千葉を楽しみ、また宿では昔に語り話がはずみました。次回はもっと大勢の人の参加を期待しています。

(五十嵐一衛)

昭和41年卒業

他の方に、お願いする時間がなく今回も自分が執筆する羽目になりました。幸か不幸か、昨年は、クラス会もなく、又特別変わったこともなく近況報告が出来なく残念に感じますが、皆、元気にそれぞれの職場で活躍して居ると御理解下さい。井上兄が、北里大薬学部微生物学の教授として活躍中ですが、教室運営に大変との事でした。

卒業して早二十八年、薬剤師の社会的立場も随分変わって来たなあと感じます。サリドマイド事件に始まり昨年のソリブジン事件、薬の恐ろしさが思い知らされました。医薬分業の促進、製造物責任法の施行、スイッチドOTC化等により、医師と共に薬剤師の責任が重

くなり、専門知識と経験が要求されるようになり、昔の薬屋さんから、真の意味での国家認定の薬剤師に変身する時期が来ました。

次回は、誰かにお願いし、クラス報告をさせていただきますので、お許し下さい。（深草佑一）

昭和46年卒業

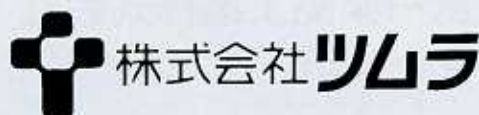
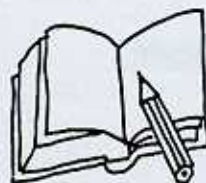
学生時代は「やさしい人」「おとなしい人」というイメージであったクラスメートの突然の訃報に接し、友への追悼の意もこめて、11月19日に薬学科のクラス会を開きました。石内（旧姓竹内）さんの送別会（カナダ永住）以来のことで、約半数の出席がありました。卒後20数年経ち、それぞれ充実した日々を過ごしている様子、気持ちだけは学生時代そのまま、とても楽しいひとときでした。次のクラス会も楽しみにしています。

(遠藤敬子)

昭和47年卒業

最近、薬学部を訪れる機会があり、私達が教えていただいた坂井先生が今年、廣瀬先生が来年、それぞれ退官されることを聞きました。ワトソンとクリックのDNA二重らせん構造の発見がホットな話題の頃で、廣瀬先生がその発見の経緯を詳細に講義してくださったのを昨日のように思い出します。私達がその頃の先生方の年齢をもう十分に越えてしまったことに感慨を覚えるとともに、同窓の仲間の顔がなつかしくなる年齢になりました。同期会を是非また企画して下さい、幹事さん。

(原久仁子)



〒102 東京都千代田区二番町12番地7
TEL: 03(3221)0001(大代表)

トアエー株式会社

〒104 東京都中央区京橋3丁目1番2号
電話 03(3281)3888

昭和51年卒業

平成6年11月6日、5年ぶりのクラス会が開催されました。今回は幹事の3人が千葉在住のため津田沼を会場としました。出席したのは35人、それにお子様5人も加わり賑やかな会でしたが、全員が近況報告をしたため歓談の時間がほとんどなくなってしまいました。そのせいか二次会、三次会の出席率の良いこと／＼……。我等もついに全員が四十路に突入です。健康に気を付けて頑張りましょう。(渡辺敏子)

昭和53年卒業

平成6年7月23日、東京渋谷にて大学入学から20年を記念したクラス会を薬学科、製薬学科合同で開催した(出席者総数28名)。現在カリフォルニア在住の高島美登利さんをはじめとして久しぶりに懐かしい顔を見ながら楽しい一時を過ごした。なお、今回の幹事として田中道裕、渡辺素子両氏を選出した。

本同窓生から戸井田敏彦氏が母校の助教授(薬品分析学)に昇格(平成6年10月1日)。また、柏木敬子博士(千葉大学薬学部)が平成7年度日本薬学会奨励賞受賞。(齋藤直樹)

昭和55年卒業

月日の経つのは早いもので、卒業して15年。仕事の上では、中堅の働き盛りとして期待され、責任も増え、何かと忙しくなったものの、充実した仕事ができるようになり、また、まだまだ手はかかるものの、家事育児も一段落、といった時期だと思います。

私も昨年、無事米国留学を終え一安心。学生時代が妙に懐かしく思えるこの頃。朝比奈さんと協力して、15年目のクラス会を開きたいと考えています。ご協力をお願いします。(小山和男)

昭和56年卒業

有難い同窓よりクラス通信の原稿用紙を締め切りの前日に受け取り、久しぶりに懐かしい面々を思い出しました。近況報告と言われても、我が同窓は各々職場

で名実共に多忙を極め、年賀状を見てお互いに無事を確認している有り様です。最近のトピックと言えば、あのScienceに我が77Pのマドンナ袖岡さんの活躍ぶりが紹介された事。元気づけられたのは皆も同じだと思います。その他風の便りに聞く女性諸氏の躍進華やかなるは、在学当時と変わらない様です。

(川合良成)

昭和59年卒業

卒業後はや11年が過ぎ、皆それぞれに社会で活躍し、自分たちの人生を歩んでいることと思う。残念ながら我が同期会は、卒業後すぐ1、2回あったきりで自然消滅している。(次の幹事は誰だっけ?) 気心知れた友人たちとも、今では子供の写真入り年賀状で間接的に再会する程度である。この年賀状での「親当てクイズ」が結構楽しく、親子だから当然だが、縮小コピーの如く似ていて笑えるのである。

さて昨年、休日に新宿でバックリA君に会った。彼は一人颯爽と? 背広姿で仕事帰り、こちらは子連れだった。立ち話をした後別れたが、ゴルフ三昧という彼が羨ましい限りである。その彼からの今年の年賀状に「三橋、本当に子供がいたんだな!」とあった。子供が苦手な私が子連れだったことが、さぞ信じ難かったのだろう。一昔が経ち、変貌したあの頃の友に会ってみたいこの頃である。(三橋弘明)

平成2年卒業

卒業して早くも5年が経ちました。あっという間の5年間でしたが、クラスメートの多くが人生の大きな節目を向かえているようです。今後もしばらくはおめでたい話など、聞こえてくるのではないのでしょうか。そんなこんなも含めて、この前クラス会をしたのはいつだっけ? と考えると、そろそろまた皆に会いたい気持ちになりました。誰かが幹事をして下さることを大いに期待しています。

(宮地(旧姓山下)りか)

鳥居薬品株式会社

〒103 東京都中央区日本橋本町

3丁目4番1号

TEL (03) 3231-6811

FAX (03) 5203-7333

日本メジフィジックス株式会社

〒102 東京都千代田区九段北 1-13-5

☎ 03-3234-2910

平成3年卒業

平成3年度卒業生の約半数が、今年から社会人となることができました。一足早く社会に出た人はもちろんのこと、皆、立派に各自の道を進んでいる様です。

昨年9月10～11日に、伊豆の稲取温泉にて一泊旅行を兼ねた同窓会を開きました。温泉付き、プール付きの豪華なホテルで大変楽しませて頂きました。その盛り上がり様は学生時代と全く変わらず……。このパワーがいつまで続くのか、傍観している方が楽しいかもしれません(?)。今回の幹事だった薬物学研究室の皆さん、どうもありがとうございました。次回は薬品合成化学の方々ですが、よろしくお願いします。

最後になりましたが、阪神地区に移った同窓生の皆さん、並びにその他住民の方々に、心より御見舞申し上げます。(木村友美)

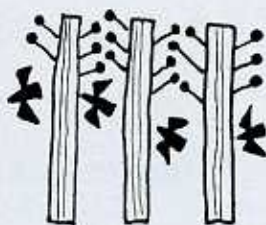
平成4年度卒業

卒業してから、はや2年がたちました。大学院に進学していた人も社会人になる人、また、進学する人とそれぞれの道を歩んでいくこととなりました。この一年間の大きなニュースと言えば、白倉君が10月に御結婚なさいました。おめでとうございます。他の方も、そろそろそのような話があるのではないのでしょうか。その時にはご一報をお願いします。

(藤田陽一郎、藤澤正枝)

平成6年度修士1年

普段の実験に加え、進路関係、国家試験の再試と、毎日が多忙な人が多いと思います。就職活動は、採用枠の少ない女性は大変ですが、あきらめずに頑張ってください。ここでは、前向きな考え方が必要です。自分は、社会的に大きく成長する為の勉強だと思っています。履歴書を書くことで、自分を見直すことになり、いろんな会社を見て回ることも楽しいと思います。こんなことを言っているうちはまだ甘いかもしれませんが、修了まであと一年。来年の今頃は、「ここに来て本当に良かったなあ。」と言えるように悔いのない一年を生きましょう。(中丸典彦)



平成6年度4年

無事全員が4年生へ進級。各々希望する研究室へ配属となり、卒論に向けて実験の日々。結構これがハード。暇だった1、2年生の頃が懐しい。合い間をぬって四卒志望の人は就職活動に奔走し、進学志望の人は夏休み返上で院試の勉強をする。みな無事進路は決まったようだ。さらに最後(?)の難関「国試」が待っている。(目標合格率100%(?))

というわけで4年生には世間一般の卒業旅行などのイベントとは無縁なのでした。やれやれ。

(永野順子)

平成6年度3年

インフルエンザが猛威を奮っています。クラスの中にもせきこむ人、くしゃみする人、熱っぽい人かいて結構苦しんでいます。せきこんでいる先生もみられます。と前おきはおわりにして3年になって私たちは実習に、テストにと忙しい毎日を過ごしています。長い時間一緒にクラスの仲間といること、今までしゃべらなかった人と話したりしていい感じです。

(伊藤雅夫)

平成6年度2年

今年度学部内での印象深い事と言えば、何と云っても試験勉強です。一見暗い一年間のように見えますが、同じ苦みを味わうと絆が深まるとはよく言ったもので、この勉強の御陰で学年内の連帯が深まったと私は感じます。まるでそれを狙って一年中試験が組まれていたのではないかと思うくらいです。

さて無事進級した暁には今度は実習が待っています。また苦しみを分かち合いながら連帯を深めていく一年にしたいと思います。(西村 健)

平成6年度1年

僕らが入学して一年がたち、毎日の生活にも各々の個性がにじみ出ているようです。

僕はといえば友人達とサッカーサークルを作り、休日や空きコマに練習(遊び?)をしています。それも原因の一つとなっているのか、その仲間の大部分はろくにバイトもせず「お金がない」ともらしています。

今年からカリキュラムが変わり忙しくなったようですが、このまま一人も欠けることなく進級していけたらと思います。(田中智宏)

支部だより

東京支部

少子化、高齢化社会、疾病構造の変化、健康意識の向上などに伴い、医薬品に対する国民の期待はますます高まっております。医薬分業も着実に進展し、薬剤師の重要性が、一層認識されてまいりました。この様な中で、薬友会東京支部は、本部との連携を密にして、本部で主催している生涯教育セミナーへの協力、会員の皆様の情報交換の場を作ることに努力したいと思っております。昨平成6年より東京支部は役員が新しくなり、一層活力ある支部づくりに励みたいと思っております。本年は2年毎の総会が、晩秋に開催予定です。役員の皆様、会員の皆様のご協力をお願い致します。また、ご要望、ご意見をお寄せください。

(渡辺 楷)

神奈川支部

平成5年11月16日に、64名と多くの会員の方々の御出席をいただき、支部同窓会を開催致しましたが、昨年は何もせずに終わってしまいました。毎年の開催をめざしていましたが、支部長の怠慢により開けず誠に遺憾の極みであると反省しているところであります。今年こそは、早めの時期に会員の方々に喜んでもらえるようなテーマを選び、支部同窓会を開きたいと思っておりますので、その節は神奈川に在住あるいは勤務される等、御関係の方々の積極的な御参加をお待ちしています。

なお、残念なことですが、我が支部の元会長であった久保長男先輩(T13卒)と菊池博先輩(S14卒)が不慮の人となられました。心からのご冥福をお祈りいたします。

(村瀬一郎)

近畿支部

あの阪神大震災では震度7を体験いたしました。不幸中の幸い、私どもには大した被害はありませんでした。地震は関東の専売特許、とばかり思っていました。が、歴史的な大地震を体験し、考えを改めました。私も神戸市民にとっては、未来とは地震対策と同義です。地震特集でもあれば、また寄稿したいと思えます。

さて、昨年の暮れ、大阪薬業会館にて行われた近畿支部年次総会に於て、支部長に任命されました。歴史

ある近畿支部を何とか活性化すべく鋭意努力するつもりでございます。前会長検見崎先輩、前幹事長早藤先輩の御薫陶よろしきを得て、幹事長牛山先輩共々尽力致す決意でございます。何卒、皆様のご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

尚、当社(山本香料)は、香料といういささかフェジーな生業を営んでおります。香りの生理学的な役割を化学的に解明し、何とか医療に役立てようと模索中でございます。宜しく御指導の程お願い申し上げます。

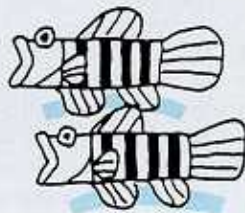
(山本芳邦)

あのはな山岳会



創刊号で紹介したあのはな山岳会はその後も順調に活動を続けている。昨年は1回の山行を計画し、実行した。ハヤチネウススキソウをはじめ多くの高山植物に彩られた7月の東北・早池峯山、10月の大台ヶ原～大杉谷溪谷の所々にかかる見事な滝の景観は忘れられない。又、平成4年には中国四川省の太姑娘(タークーニャン)山(5,025m)、昨平成6年にはアフリカ・タンザニアのキリマンジャロ山(5,685m)の登山ツアーにそれぞれ3名が参加し登頂を果たした。今年初の山行は1月21日奥武蔵の堂平山で11名が顔を合わせた。いつも数名から多い時には20名位が集まり楽しい(時には厳しい)山歩きを続けている。今後も無理をせず、中高年にふさわしい登山を心掛けて行きたい。

(吉田智子)



卒業生の進路

会社 / 進路	学部		修士		計
	男	女	男	女	
進学者 (千葉大学大学院)	23	17	5	1	46
(他大学大学院)	0	1	1	0	2
大正製薬	0	4	0	0	4
萬有製薬	0	1	2	1	4
杏林製薬	0	1	2	0	3
帝国臓器製薬	0	1	1	1	3
日本メジフィジックス	0	3	0	0	3
三共	0	1	2	0	3
エーザイ	0	1	1	1	3

会社 / 進路	学部		修士		計
	男	女	男	女	
中外製薬	0	2	1	0	3
鳥居製薬	0	1	0	1	2
三井製薬	0	2	0	0	2
ファイザー製薬	0	0	0	2	2
トーアエイヨー	0	0	2	0	2
キリンビール	0	0	1	1	2
わかもと製薬	0	0	1	1	2
日産化学	0	0	2	0	2
第一製薬	0	1	1	0	2

★1名就職先

学部：マリオ・メレル・ダウ、アオイ薬局、立川総合病院、グレラン製薬、日本調剤、持田製薬、葉日本堂、千葉県勤労者医療協会、富岡調剤薬局、太田総合病院、富士レビオ、ツムラ、長野県、ヒグチ、タカノフーズ、下水道事業団、オフテックス、養賢堂、三生製薬、横浜市、黒鐘化成、角春館製薬、千葉薬品、石和温泉病院、千葉県、日本ロシュ

修士：ジーシー、山之内製薬、メルシャン、龍角散、田辺製薬、三菱化成、特許庁、協和発酵工業、東レ、北陸製薬、日本グラクソ、化学及び血清療法研究所、日本レダリー

博士：千葉大学、三共

1995年度

入学者出身校別一覧

- 25名 千葉県 (東邦大学附属東邦5名、千葉4名、千葉東4名、東葛飾4名、船橋2名、長生2名、薬園台、市立千葉、市立稲毛、波谷教育学園幕張)
- 20名 東京都 (桜蔭3名、筑波大附属2名、武蔵野北、本郷、富士、八王子東、西、青山、三鷹、東京学芸大学教育学部附属、吉祥女子、共立女子、普連土学園、城北、国学院、女子学院、竹早)
- 7名 埼玉県 (浦和第一女子3名、浦和2名、川越、川越女子)
- 5名 静岡県 (清水東、浜松北、隼山、西遠女子学園、藤枝名誠)
- 4名 茨城県 (水戸第二、土浦第一、茗溪学院、江戸川学園取手)
- 3名 群馬県 (伊勢崎東、高崎、太田女子)、新潟県 (新潟2名、国際情報)
- 神奈川県 (厚木、横浜雙葉、フェリス女学院)
- 2名 栃木県 (宇都宮女子2名)、三重県 (津西、高田)
- 福島県 (安積女子、磐城女子)
- 1名 北海道 (旭川東)、山形県 (酒田東)、長野県 (松本深志)、石川県 (金沢泉丘)、愛知県 (南山)、山口県 (宇部)、高知県 (土佐)、大分県 (大分鶴崎)



1994. 4 ~ 1995. 4

教職員の異動

- '94. 4. 1
渡辺 敏子 助手 採用 (薬品製造学、東邦大学薬学部より)
- '94. 6. 24
相見 則郎 教授 昇任 (生体機能性分子)
村越 勇 教授 配置換 (遺伝子資源応用)
池上 文雄 助教授 昇任 (生体機能性分子)
齋藤 和季 助教授 配置換 (遺伝子資源応用)
山崎 真巳 助手 昇任 (遺伝子資源応用)
北島満理子 助手 昇任 (生体機能性分子)
- '94. 10. 1
戸井田敏彦 助教授 昇任 (薬品分析化学)

- 高山 廣光 助教授 昇任 (薬化学)
烏澤 保廣 講師 昇任 (薬品合成化学)
- '95. 3. 31
坂井進一郎 教授 停年退官 (薬化学)
村越 勇 教授 停年退官 (遺伝子資源応用)
玉野井逸朗 教授 停年退官 (細胞生物学)
塚本喜久雄 助手 辞職 (微生物薬品化学、名古屋市立大学薬学部へ)
- '95. 4. 1
齋藤 和季 教授 昇任 (遺伝子資源応用)
額賀 路嘉 助手 昇任 (微生物薬品化学)

薬友会より

平成7年～8年 主な活動予定

- 7年5月 会報5号発行
 7月 第4回生涯教育セミナー（次頁参照）
 11月 会員名簿発行（4年に1回）
 11月 各支部総会・懇親会
 12月 役員会・常任委員会
 8年5月 会報6号発行
 6月 役員会・総会・生涯教育セミナー
 12月 役員会・常任委員会

平成6年 活動報告

- 3月 新入生入会案内（終身会員100名入会）
 5月 会報4号発行（4200部）
 6月 役員会・総会・第3回生涯教育セミナー
 （千葉大学西千葉キャンパス）
 「薬の適正使用、それぞれの立場から」
 （講師4名、参加者311名）
 12月 役員会・常任委員会（出席42名）

その他の活動のお知らせ

日本薬剤師会の「ラジオたんば薬剤師生涯研修講座」のテープを購入しました。これらをテキストに、大学の百周年記念館で定期的に勉強会を開くことを計画しています。参加希望の方はご連絡下さい。

（担当：上野光一 Tel (043) 290-2920）

薬友会に対して薬剤師の求職・求人の仲介をというご要望を承っておりますが、この件に関しましては現在検討中ですので総務委員にまで御連絡下さい。

（Tel (043) 290-2894）

資金協力をお願い

本会の活動を益々盛んにするために、会員の皆様に終身会員へのご加入とご寄付をお願いしております。

- 1) 終身会員。会費2万円。昭和48年に開設。
 （現在50%加入）会員名簿を無料で配布します。
- 2) 寄付（1口2千円から）。終身会費が1万円であった皆様、ご協力をお願いします。
- 3) 会報、名簿への広告掲載にもご協力下さい。申込みは、同封の郵便振込用紙をご利用下さい。



ファルマシア株式会社

〒105東京都港区虎ノ門4丁目3-13
 秀和神谷町ビル
 電話：(03) 5402-8677（大代表）

新会員名簿一頒布のご案内

一部 5000円（会員価格）

終身会員の方へは発送します。

終身会員以外の方は名簿係へお申し込み下さい。

新会員名簿発行に向けてのお願い

名簿委員会では、平成7年度版の新名簿発行（平成7年秋予定）に向けて準備を進めております。新名簿の特徴は、(1)勤務先電話番号の導入、(2)会社別人名索引などの充実、(3)大きさをA4版に拡大、等です。このため、会員の皆様には同封の連絡カードを必ずご返送下さい。この際、勤務先電話番号と、氏名のふりがなを必ず正しくお知らせ下さい。ふりがなが間違っていますと、索引作成が困難になり、正しい位置に御名前が出てきません。以上、よろしくお願い致します。（締切：5月末日）

薬友会宛送金のご案内

郵便振替：00150-5-551796「千葉大学薬友会」
 銀行振込：千葉銀行西千葉支店、普通預金口座
 2232357「千葉大学薬友会」

できるだけ郵便振替でお願いします。銀行振込の場合は同時にはがき又はFAX（03-255-1574）で送金内容をお知らせ下さい。

各種委員会役員名簿

- 総務委員会 ○今成登志男、笈川節子、興石一郎、関根利一、村上泰興（S36）、立崎 隆（S41）、野中浦雄（S42）、坂井和男（前委員長：アドバイザー）
 財務委員会 ○笈川節子、今成登志男、興石一郎、関根利一、村上泰興（S36）、立崎 隆（S41）、野中浦雄（S42）、藤沢栄一（S13：アドバイザー）、上野光一（前委員長：アドバイザー）
 名簿委員会 ○関根利一、今成登志男、笈川節子、興石一郎、村上泰興（S36）、立崎 隆（S41）、野中浦雄（S42）、池上文雄（前委員長：アドバイザー）
 事業委員会 ○成松鎮雄、相見則郎、山口明人、坂井和男、関 宏子、小口敏夫、大川幸子（S32）、山田和見（S32）、小川通孝（S34）、澤井哲夫（前委員長：アドバイザー）
 会報委員会 次頁参照（○印：委員長）

わかもと製薬株式会社

常務取締役 前田 孚
 研究開発本部長（昭和35年卒）

〒103 東京都中央区日本橋宝町1-5-3
 電話 03-3279-1275

第4回千葉大学薬友会生涯教育セミナー（宮木高明記念セミナー）開催のお知らせ

第4回生涯教育セミナーを下記の要領で開催致します。今回は公開講座や会議などに使用できる多目的な大学ホールが西千葉キャンパスに完成しましたので、その御披露目として昨年に引き続き地元千葉で開くことにしました。薬友会会員のほか、千葉県内の薬剤師の方々にもご案内することにしてあります。関心をお持ちの非会員の方もお誘い合わせの上、奮ってご参加下さい。

1) メインテーマ 「高齢社会と薬学」

21世紀を5年後に控えて、我々は既に高齢社会の真只中に生きています。薬学の領域においてもこの状況を踏まえ、基礎薬学に加えて近年特に医療薬学の重要性が指摘されております。そこで今回は「高齢社会」を中心に据えて、基礎研究としての老化のメカニズム、高齢者を対象とした薬物療法の理論と実際、呼吸器系疾患の臨床的視野から捕らえた高齢化の現状、および高齢社会に希求される高度医療と高機能性医薬創製について、それぞれのエキスパートにお話を頂くことにしました。これらの講演から、高齢者を取り巻く21世紀の医療において、薬剤師、研究者、教育者などとして薬学領域に携わる我々の担うべき役割を浮き彫りにしたいと考えています。

2) 演題と講師

1. 老化のしくみ
松尾光芳（東京都老人総合研究所部長）
2. 高齢者の薬物療法
北田光一（千葉大学医学部附属病院薬剤部長）
3. 肺がん診療を通して見た高齢社会
長尾啓一（千葉大学保健管理センター所長）
4. 宮木高明記念講演
2005年を展望したフロンティア医療と創薬研究
野口照久（山之内製薬㈱副社長、米国ロックフェラー大学兼任教授）

3) 日 時：平成7年7月1日（土） 午後1時～5時
引続き、5時30分よりミキサー（懇親会）を行います。

4) 場 所：千葉大学大学ホール（けやき会館）
千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学西千葉キャンパス内
（JR 西千葉駅北口より南門経由で徒歩7分、京成みどり
台駅より正門経由で徒歩6分）

5) 参加予約の方法：同封の振込用紙に、参加者氏名、住所、卒業年次、職業をご記入の上、下記郵便振替口座に、参加費をお振り込み下さい。

00150-551796 千葉大学薬友会

参加予約締切：平成7年6月20日（火）

6) 参加費：1,500円（予約時）

2,500円（当日・非会員）

7) ミキサー参加費：2,500円（予約時）

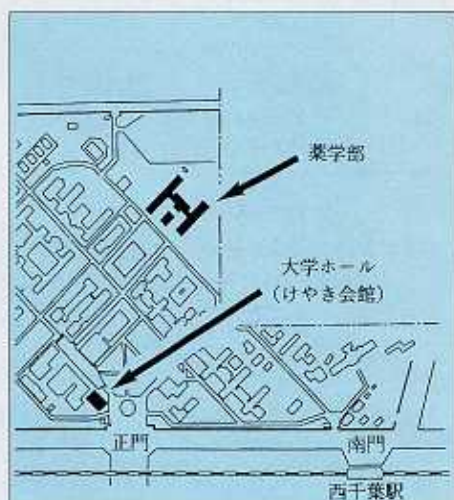
3,000円（当日・非会員）

8) 連絡先

〒263 千葉市稲毛区弥生町1-33

千葉大学薬友会事業委員会（担当 成松鎮雄）

TEL 043-290-2936 FAX 043-255-1574



編集後記

御陰様で第5号も無事発行できました。皆様の御協力を改めて感謝申し上げます。本号では薬学教育と薬剤師の将来について特集致しました。21世紀に向けて薬剤師は如何にあるべきか、理想像を掲げ着実に前進したいものです。会報に関する御意見お待ちしております。

会報委員

五十嵐一衛（委員長）、鳥澤保廣、細川正清、堀江俊治、石井伊都子、上野幸夫（S33）、加藤文男（S47）、角田範子（S52）、稲垣陽子（修2）、佐藤裕二（修2）